特集◎放課後、どう過ごす？

わいわいランドがはぐくむもの。

放課後は子どもたちにとって、いろいろな仲間と出会い、さまざまな体験ができる貴重な時間。しかし、「安全に遊べる場所がない」、「遊び仲間がいない」など、家の中で過ごさざるを得ない事情もあるようです。来年度、一部地域で行われている「わいわいランド（放課後子ども教室）」の活動が、全地域に広がる予定です。この取り組みがはぐくむものについて考えました。

（2～5P写真）昨年11月から1月にかけての「わいわいランド」のようす。自由に遊ぶことを基本にしつつ、工夫をこらした季節の催しなども行われます。

子どもたちの歓声響く

午後2時半――。明南小学校の体育館には、子どもたちの声が響きます。

「先生、こっちでサッカーやっていい？」。

「あとでお手玉やろうよ」。

子どもたちは、体育館のそれぞれの遊び場所に散らばり、違うクラスや異年齢の子、地域の人とボール遊びや鬼ごっこ、読書やお手玉などをして遊んでいます。

1年生の古澤魁世（かいせい）くんは、「ここでサッカーをして遊ぶのが好き。他にも、折り紙とか本とか、新しい遊びを覚えられて楽しい」と笑顔で話します。

明科地域のわいわいランドは、昨年5月に発足。下校時間の早い毎週水曜日の放課後、小学校の体育館を中心に活動し、「安全管理員」と呼ばれる有償ボランティアの皆さんが子どもたちと一緒に遊んだり、見守ったりしています。

市の社会教育指導員で、明科地域のコーディネーターでもある腰原正己（せいき）さんは、「ここでは、子どもたちが自分たちで遊びを見つけ、自由に遊ぶことが基本」と活動の狙いを説明します。この活動は、子どもたちが十分に「遊び込む」ことが大きな目標で、学校のように、一同がそろって同じ事をすることや、何か一つのことを教えることを目的としていません。そして、子どもたちが自分たちで遊ぶことを基本としつつ、昔遊びや読み聞かせなど、さまざまな遊びを体験する機会も提供しています。

腰原さんは「最初は自分たちでやるという感じではありませんでしたが、次第に自分で遊びや仲間を見つけ出すことができるようになりました。また、いろいろな遊びに接することで、子どもが遊びを選択できるようになりました」と手応えを感じています。

安全管理員の三好さき子さんは、「始まったばかりのころは、私たちもどのように接すれば良いか分からず、子どもたちも戸惑っていたようでした。でも最近では、『一緒に遊んで』と呼びに来ます」とつながりに変化を感じています。

Special Topic

わいわいランドとは

すべての児童を対象に、下校時間が早い日（主に水曜日の午後2時ー5時）に、小学校の体育館などを利用して、地域の皆さんと一緒に、さまざまな遊び、地域との交流などを行う取り組み。現在は、豊科・明科地域で実施。5月以降に穂高・三郷・堀金地域でも活動を開始する予定。